



学校だより

平成29年1月27日

横浜市立高田中学校

2月号(第28-11号) TEL: 591-4183 校長 福田 之男

今年もよろしく申し上げます。

校長 福田 之男

年が明けて早くも一月がたとうとしています。昨年は地震や台風の被害が多かった年でしたが、今年は穏やかな一年になってほしいと思います。

今年、曜日の関係で冬休みが18日間あり、1月10日(火)に3学期の始業式が行われました。始業式では次のような話をしました。

○知識基盤社会

21世紀は、「知識基盤社会」の時代と言われている。これまで、人間は機械を用いて資源を加工して物を生産し、それにより経済的な利益を獲得して生きてきたが、今、人間は物に代わり知識を創造し、これを活用して利益を得ようとしている。このような「知識基盤社会」では、新しい知識、情報、技術が政治・経済・文化をはじめ、社会のあらゆる分野での活動の基盤として飛躍的に重要性を増している。「知識基盤社会」は、変化が激しく、常に新しい未知の課題に、試行錯誤しながらも対応することが求められる社会である。こうした社会を生き抜くには、変化に対応して、自ら課題を設定し、答えのない問題に答えを見出し、他者と協調しながら、実行、実現していくことのできる力が特に重要となり、まさに本校の学校教育目標である「ストリートスマートの育成」の目指すところと同じである。

○知識基盤社会で必要な力の身に付け方

学習への取組では、与えられた課題についてだけを行うのではなく、まず基礎的な知識を身に付けた上で、自分なりの考え方や意見をもち、それを先生や友達に発信していくことが大切である。そのためには自ら物事に主体的に取り組むことが重要である。また、生活面では、課題を解決するために、時に試行錯誤しながら、友達や先生、保護者と協力して、知恵を出し合い解決していくことが大切である。今年、学習面や生活面で、主体的に物事に取り組む姿勢をもって生活してほしい。

○3学期に大切にしてほしいこと

今年度のこれからの3ヶ月は、それぞれの学年のまとめの期間であり、次の年度へ向けての心構えを創る期間ともいえる。全学年とも、これからの3ヶ月間、

一日一日を大切に、諸活動にもお互いに協力し合い、一生懸命に取り組み、学年が終わるときには、それぞれの達成感を味わい、皆で感動を共有してほしい。

3学期は学校としても、年度のまとめの時期であり、次年度の準備をする期間です。教職員も今年度の教育活動を振り返り、よりよい教育活動を目指して取り組んでいく所存です。今年もよろしくお願いいたします。

職場体験学習を終えて

3学期始業式の翌日、1月11日（水）・12日（木）の2日間をかけて、第2学年では、「職場体験学習」が実施されました。港北区内36か所の事業所にご協力いただき、学校内での学習活動とは全く異なる貴重な体験活動をおかげさまで無事に、そして有意義に終えることができました。

職場体験学習に向けての動きは、夏休み前から始まっていました。2学年の職員で36か所の事業所を分担し、今年度引き受けていただけるか否かの連絡から始まり、夏休み中に各事業所にご挨拶に伺いました。その時に一番感じたことは、「職場体験学習をぜひ、有意義なものにしたい。」という、地域の皆さまの熱い思いでした。

2学期に入り、合唱コンクールや高田祭などの秋の行事が一段落したところで、職場体験学習に向けての本格的な準備が、生徒たちに向けて始まりました。最初は、気楽なアルバイトをするような気持ちで事前学習に取り組んでいた生徒も一部いたようですが、その雰囲気が一変したのが、12月の個別面談期間中に行われた、各事業所への事前挨拶の時でした。今年度、ほとんどの生徒が事前挨拶に伺いました。どの生徒も実社会の現場の打ち合わせに近い体験を、事前挨拶でさせていただき、本番に向けて一気に緊張を高めたのでした。

中には、事業所の応接室に通され、まさに大人（社会人）と同じ待遇（言葉遣いもふくめて）を受けて、学校へ報告に帰って来た時にも、まだ緊張していた生徒もいました。「子どもとして対応されると思っていたら、一人前の大人として扱われて、びっくりして緊張しました。」との感想でした。

そして迎えた職場体験当日。地域の皆さまの温かいご指導とご支援を、生徒も2学年の職員も、身にしみて感じた2日間でした。紙面の関係で全てをお伝えできないのが残念ですが、例えば、園芸店で小さな種苗を一つひとつ黙々と植え付ける作業があったのですが、その種苗は、この春に行われる予定の高田中学校の花殿花壇活動の苗になるのだと伺いました。生徒たちの蒔いた種が、やがて花となって咲くわけです。また、幼児を預かるある施設では、1日目に子どもの目線に立って仕事をするようにという助言を受けたそうです。子どもたちが遊ぶ部屋の清掃をする時に、棚の下など大人には見えない場所も、子どもたちの目線に立

つと、そこに入っていきこともあるので、掃除をしてきれいにしておくという意味でした。「相手の立場に立って物事を考える」ということの本当の意味を学んだ貴重な体験になりました。

昨年度の「職業講話」に続く、キャリア教育（自分づくり教育）の一環として行われた職場体験学習には、3つのねらいがあります。①自分の将来について考え、これからどのように生活を改善していくか考えるきっかけとする。②職業を実際に体験することにより、働くことの意義を理解し、やりがいと困難に立ち向かう姿勢などを学ぶ。③社会人としてのマナーを理解し、身に付けていくきっかけとする。今回の体験で、②③については達成できたのではないかと思います。①については、「自分の活動を振り返りしっかり発表する（表現）」「仲間の活動を知り、共に学習を深める（学びの共有）」を目的として、各学級で行った1分間スピーチを考えるきっかけにしてもらいたいと思っています。ご家庭におかれましても、この職場体験学習を進路について話をする良い機会としていただければ幸いです。



第59回 横浜市立中学校個別支援学級・特別支援学校合同学芸会

高田中学校5・6組は、1月17日（火）に西公会堂にて行われた横浜市立中学校個別支援学級・特別支援学校合同学芸会に参加してきました。トーンチャイム演奏で『涙そうそう』と『A whole new world』を発表しました。

7月から練習を始め、長い期間練習に励みました。トーンチャイムの鳴らし方や音の響かせ方、タイミングよく鳴らすなど細かいところまで練習をしました。特に子どもたちが苦戦していたのは、何個ものトーンチャイムを一斉にそろえて鳴らすことでした。またその頑張ったこと、難しかったことなどを5・6組みんなで話し合い、高田祭ではトーンチャイム演奏の前に発表しました。

何度も何度も練習を繰り返し、本番を迎えました。7月からずっと頑張ってきた練習の成果を出し、また5・6組として3年生を含めた最後の発表となる日です。それぞれの思いを乗せ、いざステージへ。本番では緊張をしながらも、きれいな音を奏で、大成功をおさめました。特に『A whole new world』の最後の音は、6音全ての音がきれいにそろい、みんなの心が一つになった瞬間でした。いろいろな人に感動をあたえるとてもすてきな演奏となりました。長い間、本当によくがんばりました。応援、サポートをしてくださった保護者の皆様、本当にありがとうございました。



港北駅伝

1月8日（日）に日産スタジアムのサブグラウンドとその周辺を会場として港北区の駅伝大会が行われました。本校からは、陸上部の男子3チーム、女子2チームの計5チームが出場し、女子Aチームが中学生女子の部で3位に入賞しました。

バドミントン部大会結果

港北区ブロック大会	優勝：伴 美保・渡部結莉亜 組
	3位：宮田遥奈・内田珠音 組
横浜市大会	ベスト8：伴 美保・渡部結莉亜 組